

平成30年度堺区区民評議会の審議経過報告について

平成29年6月15日付、堺堺企総第668号で堺区区民評議会に対し諮問されました事項について、平成30年度の検討状況を以下のとおり報告します。

1 審議経過

○これまで5回の会議を開催

(4月24日、6月21日、8月30日、9月27日、10月25日)

※8月30日、9月27日は、堺区選出市議会議員との意見交換会を併催

○区内フィールドワーク(5月28日)、公民協働の先進事例の視察(7月27日)を実施。

○昨年の中間報告の方向性を受けたモデル事業を実施。

2 諮問事項

「住んでよし」「働いてよし」「訪れてよし」のまちのあり方について～参加でつくる「堺区の都市魅力」～

3 審議の概要

区民評議会からは、29年度末の中間報告で、施策・事業につながる方向性として「地域力の強化」、「働きやすい環境の整備」、「郷土愛の醸成」の3つが示されました。

今年度は、この方向性に沿ってフィールドワークやモデル事業を実施し、その検証も踏まえつつ、具体的な施策提案について意見交換を行いました。

《 主なモデル事業 》

○ 浅香山 GENKI プロジェクト <地域力の強化> 5月5日、8月2日

地域の賑わいづくりを目的としたフリーマーケットや夏祭りを実施。地域の商店街を始め大学、病院など多様な主体が連携することで、多面的な「つながりづくり」をめざすとともに、イベント収入を原資とした継続性の検証も行いました。

○ サカイ・サンセット・ガーデン <働きやすい環境の整備> 8月24日

ザビエル公園を舞台に夜の賑わい創出と、大道筋沿道企業に勤める就労者のワークライフバランス確保を促す実証実験。飲食ブースやステージイベントなどに加え、区内の高等学校の茶道部も参加し、多くの来場者(7,000人以上)で賑わいました。

○ 子ども観光ガイド <郷土愛の醸成> 7月18日

仁徳天皇陵古墳の地元小学生が古墳について学習し、観光ガイドを体験することにより、郷土愛の醸成を図る取組。子どもたちが改めて地域の魅力に気づくとともに、地域に関心を持ち、誇りを感じるきっかけとなりました。

4 審議状況

(1) 堺区選出市議会議員との意見交換会での意見

「働きやすい環境の整備」

- ・職場を清潔で快適な環境に整えることが重要。堺区は職住近接で働ける企業も多く、それだけで若者が集まり、伝統産業も環境を変えるだけで後継者の育成につながる。
- ・子育て中の女性と企業のニーズにミスマッチを感じる。それを埋める取組が必要。

「郷土愛の醸成」

- ・堺から転出した人々の郷土への思いの希薄さが、ふるさと納税の額からも見えてくる。郷土愛の醸成は本来大変時間のかかるものと思うので、感受性の強い子どもときの教育はとても重要である。
- ・挨拶やおもてなしなど、来訪者にとって、その土地の人々との触れ合いが結果的に良いまちの印象を残すように思う。

(2) 区民評議会での審議状況について

「地域力の強化」

- ・レトロな紡績工場を活用した「スピニングミル」など、古くから近隣に親しまれた建物を活用することで、まちや人がつながりやすいという効果がある。
- ・防犯や防災訓練など、地域の人々が同じ方向性をめざしやすい取組から始めることが重要。その場合、若者を呼び込み多様な世代で関わる仕組みの構築が望ましい。

「働きやすい環境の整備」

- ・堺区には空き家や空き店舗などが多くあり、借りたい人（起業者）と貸したい人（家主）とのニーズを組み合わせるマッチングする仕組みがあればよい。
- ・睡眠・食事・運動と仕事とのバランスがとれた健康的な働き方の実践が重要。中小企業などの経営者、就労者にもその重要性を働きかける取組が必要である。

「郷土愛の醸成」

- ・世界で一番のものが身近にあることは、まちとしての強みである。仁徳陵だけでなく、生活圏のなかで誇りや愛着を持てるものを子どもたち一人ひとりに探してもらいたい。
- ・観光ガイド体験は、子どもの感性を高め、新たな学びへの契機となる。このような経験を重ねることでシビックプライドや郷土愛の醸成につながる。

以上